

「尿蛋白の選択指数がIgA腎症の予後に与える影響に関する検討」に対するご協力をお願い

研究責任者 畔上 達彦
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦2012年3月1日より2020年3月31日までの間に、IgA腎症と診断された患者。

2 研究課題名

承認番号 20241041

研究課題名尿蛋白の選択指数がIgA腎症の予後に与える影響に関する検討

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学病院

研究責任者

(職位) 専任講師 (氏名) 畔上 達彦

4 本研究の目的、方法

慢性糸球体腎炎は透析導入となる原疾患の上位第3位である15%を占めており、そのうち最も高頻度な慢性糸球体腎炎であるIgA腎症の治療法の選択に関わる指標や予後を予測する指標はいまだ確立されていません。

そこで、我々は尿蛋白の選択指数(Selectivity index)に注目しました。尿蛋白の選択指数(Selectivity index)は分子量の大きいIgGと分子量の小さいトランスフェリンのクリアランスの比であり、糸球体の障害が高度であると分子量の大きな物質が糸球体を透過し、尿蛋白の選択指数が高値となるため、従来はネフローゼ症候群の診断や治療反応性の予測に用いられてきました。尿蛋白の選択指数は糸球体全体の透過性を反映すると考えられるため、IgA腎症においても、尿蛋白の選択指数が予後の予測や治療法の選択の一助となる可能性が期待されます。IgA腎症において、腎生検時の尿蛋白の選択指数が低いこととその後の予後が関連するかどうかを解析させていただきます。具体的には、尿蛋白の寛解、血尿の寛解、腎機能の半減、腎代替療法の開始などを評価させていただきます。

5 協力をお願いする内容

当院で IgA腎症と診断された方のデータを使用し、尿蛋白の選択指数の有用性を評価するための解析を行わせていただきます。冒頭に述べました通り、新たなサンプルの取得は一切ございません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2026年6月1日

7 外部への試料・情報の提供
該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究分担者：満野竜ノ介 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: rmitsuno@keio.jp

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第2・4・5週の土曜日（ただし祝日は除く）、午前8時40分から午後4時30分]をお願いいたします。

以上